日の巫女の 本なる國の 朝倉に
長田に稔る 豊を積み益せ

令和六年元旦

大中臣正比呂

代々の日の巫女は「日道」に事へ、九州を流れる筑後川沿いの朝倉なる地の、長く美しい田圃に稲を蒔き、天候を占い、季節を掴んだ。稔った稲は朝日に輝く高倉に保管され、市も盛んに開かれて、隣国と交易が行なわれた。魏との外交を指導した倭國の卑弥呼は、地上を去って天照大御神となり、後を継いだ臺與は「豊の國」に移り、やがて大和は天皇が統べる国となった。

〈魏志倭人伝 援用〉

あけましておめでとうございます